

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名

松井清彦

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

臨床検査技師に求められる役割は、医師が患者を診断するためや治療の効果などを判定するために必要な検査を行い患者の生活の質を向上することである。さらには、国民の公衆衛生を向上させることも担っている。学生が、これらの目標を達成するために必要な技術を習得することができるようにすることが科目担当者としての責務である。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
検査管理学総論	臨床検査技術学科	必修	2	85
公衆衛生学I	臨床検査技術学科	必修	3	106
公衆衛生学II	臨床検査技術学科	必修	4	95
臨床検査学総論実習	臨床検査技術学科	必修	3	104
公衆衛生学実習	臨床検査技術学科	必修	4	95

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

臨床検査には、心電図検査や超音波検査など生理学的な検査の他に血液や尿などを分析する検体検査がある。検体検査においては、精確な検査を行うには知識だけではなく技術も求められている。また、検査が精確に行われているかを評価することは、検査結果を担保するうえで重要な要因の一つである。学生がこれらのことを理解し、技術を習得できるようにすることが大切であると思う。一方、公衆衛生は個々の人間ではなく大量のデータを集め解析を行うことで問題点を見つけ、解決する視点が必要である。我々の住む社会は、ますます情報処理技術が発展することが予想される。特に、データサイエンスという考え方が重要視されることから、臨床検査においても、検査ができれば良いというだけでなく検査によって得られた情報を集め解析することが求められるようになっていくと思われる。実習をとおして、学生が自ら考え問題解決をすることができるようにすることが教員としての責務であると考え

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

学生教育においては、知識を教授するだけでなく学生自身が講義内容を理解し身に付けなければならない。そのためには、反復学習が効果的であると考えている。そのため、講義内容を振り返るために前回までの講義についての小テストを行っている。小テストは、採点とともに間違ったところを添削し学生に返却を行っている。さらに、添削を行っているか確認するために再提出を実施している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

公衆衛生学実習において、課題としてデータを提示し、統計ソフト「R」を用いて各自で平均値、標準偏差、相関係数、回帰直線などについて統計解析を行った。さらに、解析結果から、データの意味をについて理解し考察を行った。

(2) ICTの教育活用

有

公衆衛生学実習では、各自のPCを用いて統計ソフトを用いて命令プログラムの作成および実行を行って解析方法について学んだ。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

これまで講義は板書を中心に行ってきたが、本年度よりパワーポイントに変更し要点をより分かりやすくまとめ反復学習をしやすいように改善を行った。図やグラフなどを盛り込むことで、講義内容を板書に比べて分かりやすくした。また、講義内容が板書に比べ多くなならないよう調整を行う一方で講義内容の質を高めるよう工夫をした。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義前に前回までの内容についての小テストを行った。小テストを行うことで、前回までの講義内容のどこが重要な点になっているかを振り返ってどこが重要であるかを理解するのに役立ったと思われた。また、小テストの解答用紙を次の講義で返却し、間違ったところを修正して再提出してもらった。このように、講義内容をふり返る機会を多くすることで、講義内容についてより深く理解できるよう工夫した。実習では、自習課題の量を少なくし学生が自発的に実習に向き合うことができるよう取り組みやすくした。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義前に前回までの内容について小テストを行うことで、小テストに向けて自習できるようにしている。さらに、小テストを返却し間違ったところについて訂正をしてもらい、再提出をしてもらっている。このように、各自で自学自習できるように取り組んでいる。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学生の疑問に対してリアルタイムでフィードバックできるよう、質問しやすい状況を作るとは、教員と学生の双方向によるコミュニケーションを高めるだけでなく教育効果も高くなると思われる。

(5) 双方向授業への工夫

C

双方向の授業を目指しているが、国家試験に合格するためにはある程度知識を教えることが必要なため双方向の授業を行うまでには至っていない。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

国家試験対策では、過去10年分の過去問題について内容を吟味するとともに模擬試験等の結果から学生が十分に理解していない分野について重点的に講義を行った。また、講義終了後には講義内容について学生からの質問に対して分かりやすく解説を行うなどきめ細やかな対策に努めた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価アンケートで板書では分かりにくいとあったので、講義を分かりやすくするため板書からパワーポイントに変更を行った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

板書からパワーポイントに変更したことで、学生が反復学習しやすいように改善したが、パワーポイントのスライドの内容をさらに分かりやすくブラッシュアップが課題である。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

講義で使用するスライドについて見直し、より分かりやすくするための改訂を行う。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

留年する学生をなくすため、理解不足と思われる学生には講義内容が難しいかどうかを尋ねたり、理解できていない所を把握するよう努めた。今後も、続けていくようにする。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

現在、特になし

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

大学等が主催する研修会には参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

講義内容について、ブラッシュアップを積み重ねさらに学生の理解に合わせた講義を行いたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

特になし。